

図解 高塚熊野神社の新スポット

くまの こどう 「熊野古道」

たかくまだより
特集記事

くまの こどう
熊野古道とは、紀伊山地の霊場を結び、熊野三山（熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社）へと通じる複数の参詣道（さんけいみち）のことであり、ユネスコの世界文化遺産として観光客に親しまれています。

そんな熊野古道をイメージして、例えば京都の新熊野神社では、境内裏の小路を「熊野古道」と名付け、小さな祠（ほくら）や工芸品などを配置して、参拝

客の憩いの散策スポットとしています。

3月、戸塚昌宏宮司から総代らへ「手作りでよいから、新熊野神社のような散策路を作れないか」と相談があり、この意を受けた建設会社の（株）イナケン（社長：稲垣俊二）殿から、神社の東斜面の整備を奉納いただきました。これにより、今の神社は北参道から仮殿まで回遊できるようになりました。

「熊野古道」と書かれた道標を立てました。



北参道から続く北斜面の小路の両脇に、もともと社殿の屋根に置かれていた巨大な鬼瓦を、魔除けとして据えました。



地域の人による多肉植物やアジサイ。



東斜面に並べて置かれた大きな石。「お宮の山」の新しい姿です。



口を開けている「阿形(あぎょう)」



口を閉じている「吽形(うんぎょう)」

小路の両側に、もともと社殿の屋根に据えられていた「唐獅子の飾り瓦」を据えました。



東斜面に向かう坂道の両脇にも、北斜面と同様に、鬼瓦と「熊野古道」の道標が立っています。

皆さま、神社にお参りに来られる際には、ぜひこの「熊野古道」をゆっくりご散策ください。

また、この道はこれで完成ではなく、地域の方が多肉植物を奉納してくれたり、アジサイを植えてくれたりされたように、今後も神社を崇敬する人たちによって進化していくことでしょう。



唐獅子の飾り瓦

鬼瓦

「鬼瓦」は、旧・拝殿と旧・覆い殿の東西に延びた棟の両端に2基ずつ置かれていました。また、旧・拝殿の屋根隅には「唐獅子の飾り瓦」が据えられていました。

